

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170201263		
法人名	北商 株式会社		
事業所名	グループホーム ライフケア北倶楽部		
所在地	札幌市北区北28条西12丁目3-13 (電 話) 011-708-8115		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年2月17日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】 ( 21年2月 5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 7日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 4.1人

### (2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 18,500円 暖房費(11~3月) 6,000円
敷 金	有 ( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 ( 2月 5日現在 )

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護 1	4 名	要介護 2	3 名
要介護 3	1 名	要介護 4	1 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 78 歳	最低 63 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮の沢ファミリークリニック、新川歯科クリニック
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一法人に属する2つのグループホーム、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援事業所が相互に連携・交流しながら複数事業の利点を生かしている。自宅に近い、家庭的な環境の中で和気あいあいの生活を営めるようにとの思いから、新築ではなく改造型とし、リハビリの効用も考慮して階段・段差のある構造をあえて残している。利用開始前には1週間程度の体験利用を奨めており、入居後は職員が1対1で個別対応して職員や他の利用者との人間関係の形成に配慮を尽くしている。利用者を生活の主体者であると同時に人生の先輩として尊敬の態度を堅持し、時には利用者から学び、支えられる関係を保ちながら、質の高い共同生活を実現している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では13項目にわたる取り組み課題を掲げ、意欲的に改善に取り組んできた。課題は職員間で話し合い、重要度や実現可能性を検討しながら順次着手し、理念の掲示、記録類の整備、評価実施期間の短縮、災害対策など着実に改善し、また取り組みを推進中である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者から職員に説明し、意見を求めて会社幹部、幹部職員でまとめあげた。評価結果は運営推進会議にも報告し、参加者の意見を求め、職員にも報告して取り組み課題を確認し、具体的な実施方法について協議し、職員と共に実行に移している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヵ月毎の開催を目標にやってきたが、昨秋以降参加者の都合が揃わず、4ヶ月の間が空いて、今月下旬開催の予定となっている。会議では施設の運営状況、利用者の出入り状況などを報告し、意見や質問を求めている。地域住民からは施設の内容についての質問があり、ボランティア活用などの提案を得ている。参加者の馴染みが未だ十分に形成されておらず、活発な意見交換や結果の活用は今後に期待している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には、何でも気軽に言ってほしい旨、繰り返し伝え、話しやすい雰囲気作りに努めている。一度家族アンケートを実施したが、回答はなかった。介護内容の希望は率直に多数出されるが、意見や苦情の類は出たことがない。出た場合には職員は管理者に報告し、組織内で適切な処理をする体制は整えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して夏祭りに参加し、子どもみこしの巡回には祝儀を出して歓待している。ホームが実施する行事には近隣の住民も招いて交流している。近隣とは付け届けのやり取りなどの付き合いがあり、近隣の高齢者がレクリエーションに参加し、食事を共にし、貰い風呂に来ることもあるなど、親しい付き合いをしている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表が考案し、職員が賛同して作り上げた独自の理念を掲げている。共に生活し、支え、命を守る、という骨子にいくつかの具体的な内容が添えられている。地域や自然と共に生きる、という理念も盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はスタッフルームとリビングに掲げられているほか、パンフレットにも掲載されている。月に2回のミーティングには理念を唱和し、職員は折に触れ理念を念頭に浮かべながら介護に携わっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して夏祭りに参加し、子どもみこしの巡回には祝儀を出して歓待している。ホームの行事には近隣の住民も招いて交流している。近隣とは付け届けの交換などの付き合いがあり、近隣の高齢者がレクリエーションや食事を共にし、貰い風呂に来ることもあるなど、親しい付き合いをしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から職員に説明し、意見を求めて幹部職員でまとめあげた。評価結果は運営推進会議にも報告し、参加者の意見を求め、職員にも報告して取り組み課題を確認し、具体的な実施方法について協議し、職員と共に実行に移している。	○	自己評価の作成に当たっては、全職員が内容を理解し、その意見が評価に反映されるよう、期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設の運営状況、利用者の出入り状況などを報告し、意見や質問を求める内容となっている。地域住民からはボランティア活用などの提案を得ている。参加者の馴染みが未だ十分に形成されておらず、活発な意見交換や結果の活用は今後期待している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前回評価の助言に従って市役所を訪問する機会を作り、信頼関係を築こうと試みているが、担当者の多忙もあって、思うようには進んでいない。法人の幹部レベルでは業務上の必要もあって交流関係ができていない。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月法人共通の広報誌「ライフケア通信」を発行して、行事などホームの様子と、各人の生活ぶりを、利用者自身の手紙、写真とともに伝えている。家族の来訪時には詳しい報告をしている。金銭管理は来訪時に見せるか、遠方の家族には通信と共に送るかしている。	○	定期通信には職員からみた利用者の暮らしぶりや健康状態も加え、金銭管理は見せるだけでなく、確認印ないし出納帳コピーの送付などで、確実を期するよう、期待したい。また職員の異動も報告事項に加えるよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、何でも気軽に言ってほしい旨、繰り返し伝え、話しやすい雰囲気作りに努めている。一度家族アンケートを実施したが、回答はなかった。意見や苦情が出た場合には職員は管理者に報告し、組織内で適切な処理をする体制は整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内3施設間で必要に応じた職員の異動があるため、利用者への影響を考慮して、クリスマス会やホテル食事会などの行事を合同で開催し、どの施設の利用者、職員も共に互いに馴染みの関係になるよう、計らっている。離職はほとんどないが、あった場合は利用者各人の事情に応じて対応する。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月定例で、介護に必要な知識をテーマに内部研修を行っている。外部研修は毎月3人をメドに、テーマごとに本人の希望と、管理者の判断に基づいて受講に派遣している。受講者は結果報告をし、職員全体で内容を学んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市主催の管理者会議に施設長が参加して他施設の管理者と交流している。ネットワークづくりや勉強会、相互訪問など、職員も含めた交流は模索中であるが、同業者の足並みが揃わず、まだ動き出すところまで行っていない。	○	他法人同業者との交流の機会づくりが進展することを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に日帰り見学、できれば1週間程度の体験利用を奨めている。中には十分な納得の得られないまま入居になるケースもあるが、入居の当初は担当職員が重点的に対応し、食卓でも傍について他の職員や利用者と馴染みの関係ができるよう、配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として尊敬し、また家族のように接することで支援される一方の立場におかないように心がけている。食事関係の仕事や掃除などの家事も職員と一緒にやる。疲れている時、寒い中を帰ってきた時など、ねぎらいの言葉をかけられて勇気づけられることも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉ではっきり意思表示できる利用者もいるが、コミュニケーションの困難な利用者については、日々の表情や言動から、各人の生活スタイルや行動パターンを把握することで意向を読み取る努力をしている。経験を踏まえた技量によるところも大きい。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、利用者、職員の意見や意向を聞いて、前回の介護計画を参考にしたり、日報での最近の様子を把握して、チーフと介護支援専門員が話し合いを行い介護計画を作成している。目標の優先順位を決めて実行し、職員にも詳しく説明して全職員で取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月毎に見直しを行っている。骨折や病状の変化、見守りから介助が必要になるなど身体状況の変化により、随時見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。介護計画の変更時も家族に説明を行い、承認を得ている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院や、利用者の希望で海や山に出かけるなど、できる範囲内で個別対応を行っている。医療連携体制を活かした早期退院などについては、病院、家族、事業所で随時相談をして対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続受診は、利用者や家族の希望で可能になっている。家族の状況により、事業所で受診の送迎を行うが、家族が送迎をする時は利用者の様子を話し、受診後も必ず状況を聞いて適切な治療が受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	インフォームドコンセントの書類を作成して利用開始時に説明をし、重度化した場合に延命治療か緩和治療かを確認している。看取りは、医療機関、家族、職員と指針に沿って話し合いを行い、状況に応じて対応していく。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊敬する気持を持ち、呼び名や言葉遣いが礼儀に反しないように注意している。トイレ誘導もさり気なく声をかけている。個人記録は事務所で保管している。家族の来訪は、個人用紙に記入して貰い事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やレクリエーションなど基本的な流れは決まっており、声かけはするが、無理に誘導したり参加して貰うような事はしないで個々の気持ちに配慮している。外出希望に直ぐ対応できない時は、現状を具体的に話して納得して貰うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、事業所の希望を入れながら食材委託業者の管理栄養士が作成している。週1回は事業所独自の献立にして、利用者の希望の食事を作ったり、誕生会やバーベキューなど食事が楽しめるような工夫をしている。職員も一緒に利用者と共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、月、木を入浴日と決め、全員の入浴を午前中から行っている。体調を崩して入浴できなかった利用者や、他の日に希望する利用者には、柔軟に対応している。入浴拒否者には、話しかけをしながら入浴直前に誘うようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や茶碗を洗う、拭く、テーブルを拭く、花の水やり、新聞を取りに行く、カーテンの開閉など個々の得意な事を役割として手伝って貰っている。花札や買い物、畑仕事、銭湯や温泉に行くなど利用者に合った楽しみ事を見つけて支援している。		
	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、天気や利用者の状況を見て週2～3回、近くの公園に散歩に行ったり、ショッピングセンターに出かけている。車椅子の人も体調を見ながら一緒に散歩に出かけている。冬季は、玄関で雪に触れたり足湯やショッピングセンターへ月2回程出かけている。	○	冬季の外出を検討中との事なので、積極的に外出の機会が持てるように期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置し、日中は施錠をしていない。利用者が外出しようとした時は、さり気なく声をかけ、目的を聞いて一緒に外出して利用者の安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難誘導、連絡訓練など昼夜を想定して利用者参加のもと自主訓練を実施している。来年度からは、消防署の指導の基、避難訓練を行う予定である。運営推進会議で災害対策を議題に取りあげ、地域への協力依頼と共に近隣住民へも直接協力依頼をしている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、食材委託業者の管理栄養士が作成して栄養管理を行っている。食事摂取量は、主食、副食の摂取量をパソコンで管理している。水分摂取量は、利用者が個々に摂取する事もあるので、事業所で提供した水分量を概算で記録している。	○	事業所で提供している一日の水分摂取量を具体的に記録し、個々の利用者の摂取状況を把握するよう期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、雛祭りの塗り絵や雛人形が飾られ、季節感が分かるように工夫されている。対面式の台所からは、食堂や居間が見渡す事ができ、利用者はゆったりとソファに座りながら調理の音や料理の匂いなど、生活感を感じる事ができるようになっている。階段には、センサーを設置して登り降りが安全に介助できるように配慮されている。	○	年間カレンダーや月別のカレンダーは目立つ場所に飾られているが、日めくりは設置されていないので、毎日の日付が分かるような工夫を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、事業所で準備したベッドの他に衣装ケースや使い慣れた椅子、箆筒、仏壇が持ち込まれていて、利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。壁には写真やカレンダーなどが飾られ、個性のある居室づくりになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。